

大台町

町内横断で野球クラブを

中学部活、人減りピンチ

生徒数の減少などにより中学校の軟式野球部の活動が難しくなっている多気郡大台町で、中学生に野球を続けられる環境を残そうと、町内の野球指導者らが新しい中学硬式野球クラブの発足へ向けた活動を始めている。来年4月までに硬式野球のリーグに加盟して本格活動開始を目指すチームは「奥伊勢ベースボールクラブ」(仮称)。26日には体験入部会も予定し、現在町内外から参加者を募集している。

今は岡野君(協和中)だけ

町内では今夏、町立大台中の野球部が部員不足により活動を休止した。他の各校でも部員の減少傾向が続いていて、13年前からは、部員不足で各校単位での質の高い練習が難しいことなどから、町内の野球指導者らが協力して各中学校の野球部員を集めて週末に合同練習を行っていた。こうした地域での協力もあり、各校が合同チームで大会に出場するなど野球部の活動を続けてきたが、ついに休部となる学校が出てしまった格好に。そこで「なんとか野球が続けられるようにしたい」と、合同練習を指導していた小椋文朗さん(56) Ⅱ同町上三瀬Ⅱら指導者たちが、新しい野球クラブ発足への活動を始めた。

新クラブは、選手の高校野球で

小椋さん(上三瀬)ら発足向け準備

の活動も見越して硬式で行うことに決めた。9月から暫定的に練習を始めた新クラブの現在の正式な部員は1人。夏まで合同練習にも参加していた岡野真治君(協和中・1年)は「今まで教えてもらったコーチにもっと教えてもらいた

い」と参加。小学校の時に所属していた学童軟式野球のMKフェニックス(上野拓治監督)でもコーチを務めていた米田剛生さん(47) Ⅱ同町粟生Ⅱらから指導を受け、トスバッティングやキャッチボールなどで硬式ボールでの練習に取り組んでいる。

ただ、課題も多い。参加選手の数も未知数で、部員1人のクラブには今のところ資金もない。野球用具は指導者らがバットを持ち寄ったり、小椋さんも所属し、町内の選手らで活動する社会人硬式野球チーム「奥伊勢倶楽部フールドボアーズ」(松原繁樹監督)から使い古しのボールをもらっている。「とにかく今は、仮の状況」と、クラブの仮代表の小椋さんは苦笑いする。

それでも、小椋さんは高い目

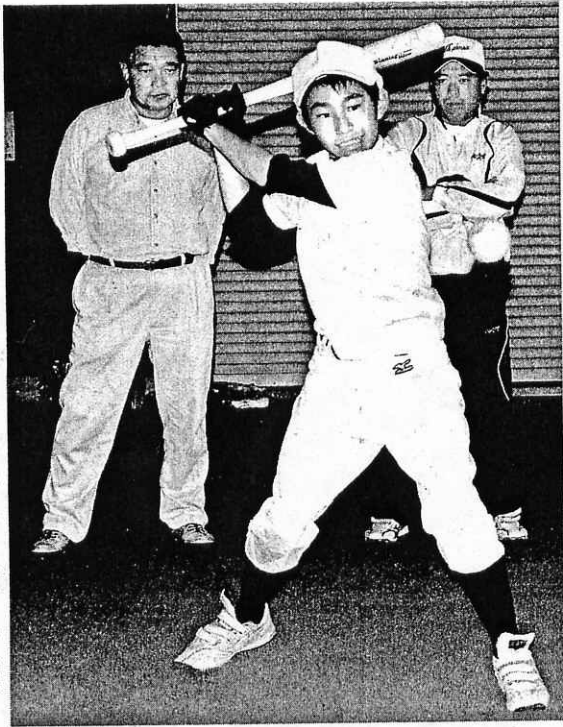
標を見詰め、発足に向けた活動に力が入る。現在練習は同町上三瀬の宮川高校や同・大台中などで行っている。「統合で野球部の活動がなくなった宮川高のグラウンドで野球の音が響かせられるのは、地域にも活気を与えられる」と小椋さん。大台中野球部出身で、現在は小学校教師になるため勉強している積木孝将さん(皇學館大・3年) Ⅱ同町上三瀬Ⅱら若い世代も指導に加わり、地域の野球環境を残していこうと活動は広がる。

小椋代表は「子どもたちが野球をする姿を残して、地域も元気つけていきたい。選手たちには、野球を通じて何事にも一生懸命取り組む姿勢を身につけてほしい」と熱く語る。クラブの新設が学校の野球部の部員減少に拍車を掛けてしまいかねないことについては「悩みもあったが、野球部がなくなつて野球ができる環境がなくなつてからでは遅い」と、力を込める。

26日、体験入部と説明会

体験入部は、26日午前10時から、宮川高グラウンドで行う。小学6年生から中学2年生までと、練習生として中学3年生が対象で参加無料。奥伊勢倶楽部の選手らによる指導も行われ、保護者への説明会も実施する。

体験入部参加の申し込み、問い合わせは事務局・出口弘和さん 090(1)981)56600へ。



バッティング練習に取り組む岡野君と、見詰める小椋さん(左)と米田さんⅡ大台町上三瀬の大台中で